



宗像大社横に「海の道むなかた館」オープン

宗像の歴史的魅力の発信源に

四月二十八日、宗像市の歴史・文化拠点施設「海の道むなかた館」が開館を迎え、高向宮司が谷井宗像市長、西谷館長らとテープカットを行った。同館は五月六日時点で入場者数が予想を上回る一万人を超え、宗像の新たな歴史・文化の発信地としての一步を踏み出した。

開館当日はテープカット後、谷井市長と高向宮司に加え世界遺産応援大使の歌手・森口博子さんが、野外に設置された特設ステージでトークショーを行い、宗像への思いを熱く語った。

またオープニング期間中は、特別講師による講演やマーチングバンドの演奏等のイベントが企画され、連休で訪れた多くの家族連れを中心に盛況を博した。

この施設は宗像市が総工費三億六千万円で旧アクシ



トークショーでの一幕



6月祭事暦

- 1・15日 月次祭
- 午前10時～
 - 高宮祭
 - 第二宮・第三宮祭
 - 引き続き
 - 宗像護国神社祭
 - 月命日祭(1日)
 - 巡 拜(15日)
- 午前11時～
 - 総社祭
 - 浦安舞 奉奏(1日)
 - 豊栄舞 奉奏(15日)



余滴

東日本大震災後、全国各地で防災計画の見直しが行われている中、「祭り」で防災という活動が注目されている。防災の基本は住民同士の情報の共有と、日頃のコミュニケーションが重要になってくる。しかし、避難誘導訓練を実施しても長期的に成功した例は少ない▼そこで注目されているのが「祭り」である。年毎の祭りを通じ、住民同士が顔見知りになっておくことで、火急な際の対処が容易に、さらにその中心となる若者の力も得られる。また神輿の巡行経路を避難誘導路と同じくすることで、平素より住民同士が共有できるなど、性別や世代を超えて得られるものは計り知れない▼但し、この「祭り」は神なしの「フェスティバル」であつては、人員の多少や盛況さが重視されてしまい、継続性を含めその効果は期待できない。「祭り」は祭事つまり神事であることで、その根幹にある神の尊厳や神聖性、神様は常にみでおられるという神観念により、世のため人のために尽くすというハハの美風となり、百年、千年の永続性を生む▼戦後、「自分だけ良ければ他人はどうなつてもよい」という誤った個人主義の解釈や、情報化社会の弊害が、日本社会全体にみとれる。神社神道は教祖を有する一般的な他宗教とは異なり、先人たちが二人が長い間積み重ねてきた信仰の姿である。日本社会が連綿と保持してきた組織力と団結力、信仰を同じくする者同士の結束力というものを、もう一度見つめ直していただきたい。(幹)

遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

神具・装束・授与品

井筒

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567

ス玄海を改装、主に特別展示と常設展示室、映像でリアルに体験できる3Dのシアタールームで構成されている。

特別展示室では現在「沖ノ島祭祀前夜」と題し、沖ノ島における国家祭祀が始まる以前の弥生時代の宗像地域で構成され、平成二十二年に国の史跡に指定された田熊石畑遺跡の墓域から出土した銅剣や銅矛などの武器形青銅器十五点の他、ヒスイ製の勾玉を展示。

常設展示室は宗像地域における旧石器時代のナイフ形石器や、縄文・弥生両時代の須



恵器や鍛冶道具、奈良〜室町時代の青磁や白磁など約二百点を展示している。

また同館は国宝クラスの展示も対応可能であり、当大社所蔵の御神宝類も今後出陳する計画も上がっている。さらに、「勾玉づくり」等の体験学習ができる施設も完備しており、今後「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録に向けた活動拠点としての役割も期待されている。

日本でも有数の宗像の歴史を感じ取っていただいた後は、宗像大社にも足を伸ばしていただき、この地で連綿と継承されてきた祈りの姿や形である、「信仰」にも直に触れて頂ければ幸いです。



氏八満神社 春の例祭齋行

去る四月二十二日、当大社が鎮座する田島地区の氏神様をお祀りする氏八満神社の春祭が、安部田島区長をはじめ氏子の方々が多数参集する中、厳肅裡に齋行された。

当日早朝、生憎の雨により恒例の御神幸はやむなく中止となるも、午前十一時高向宮司と神職一名が出向し、本殿にて出御祭が齋行された。続いて宮司が御神璽を捧持し安部田島区長を始め氏子の方々と共に当大社・祓舎に設営された御旅所へ向かった。

午前十一時半駐蹕所祭齋行し、祭典後当大社神門前まで御神璽と共に進み拝礼、当社を後にした。田島公民館に入り、館内に安置



駐蹕所祭 (於宗像大社)



された神輿へ御神璽を奉安、頓宮祭が齋行されると、和やかに直会が行われた。

午後二時半には直会を終え、御神璽を氏八満神社本殿へとお返しする還御祭が行われ、本年の春祭も神人和楽の中、恙なく終えた。



出御祭 (氏八満神社を出御)

祭典が終了すると、無事に終えた安心からか、氏子の方々からは安堵の笑みがこぼれており、皆の地域の氏神に対する篤い崇敬の念が伺えた。また、祭典時には次世代を担う子供達の姿も目にしたが、日本の原風景ともいえるこういった小さな祭礼を継承することが、地域の結束を高め文化を育むことであろう。是非この伝統ある地域の祭礼を子々孫々まで継承して頂きたい。

五月・浜宮祭齋行

薫風立つ五月五日(こどもの日)、恒例の五月・浜宮祭が、江口区の五月宮と神湊区の浜宮でそれぞれ齋行された。

当日、神職四名が神湊に鎮座する浜宮へ出向。五月五日は、五節句の一つ「端午の節句」にあたり、浜宮石祠の神前には海川山野の味物に加え、「赤飯」「粽」「ガメの葉饅頭」「菖蒲酒」など、同節句に因んだ神饌が供えられ、午前十時三十

分浜宮祭を齋行。当大社責任役員、氏子会長、地元総代、神湊地区の各区長をはじめ地元の方々が多数参列された。

引き続き、釣川河口の江口に鎮座する五月宮へ移動。五月宮には社殿はなく、大きな常緑樹を依代とする神籬祭場で、その前庭に浜宮祭と同じく神饌をお供えし、午前十一時、浜宮祭参列者に加え、江口区長、福岡県立少年自然の

家「玄海の家」関係者ら地元の方々が多数参列される中、五月祭が齋行された。

祭典終了後、五月寮で直会が執り行われ、参列者一同連綿と受け継ぐこの祭典の大切さに心を寄せ、榎の若葉が敷かれた折敷に盛られた赤飯、がめ煮・膾・粽・ガメの葉饅頭を古式ゆかしく栗箸でいただきますながら、神人和楽の一時を過ごした。

稲の成長を予祝する神事でもあるこの五月・浜宮祭が終わると、神郡宗像では田植えの準備が始まり、一面の水田に早苗が影を浮かべながら夏へと木々も緑を深めていく。



五月祭



浜宮祭



五月寮での直会

宗像大社春季奉納盆栽展

第二十九回宗像大社春季奉納盆栽展が、大型連休中の五月三〜六日の四日間にわたり本殿西側の境内に優美な黒松、五葉松、紅葉など多くの盆栽が並び見事に開催された。

この盆栽展は、毎年春と秋(年二回)に開催され、神郡宗像の各地区(宗像市・津屋崎町・福岡町)の盆栽愛好家が、「宗像大社の御神徳の発揚に努め、併せて会員相互の親睦を計り、日本の伝統と格調高き美を遺憾なく表現出来る盆栽の普及盆栽技術の研鑽に励み、盆栽発展の一助とする」ことを目的に、宗像大社奉納盆栽会(現会長 石松重敏氏)を結成し今日に至っている。

開催中は、快晴に恵まれ盆栽も日の光を受ける事により瑞々しく青々と映え、参拝者に心地よい静寂な一時を与えていた。



沖津宮・中津宮両宮 春季大祭齋行 筑前大島で、五穀豊穡と豊漁を祈念

大島最高峰の御嶽山に鎮座する摂社御嶽神社にて春季大祭が齋行。

大型連休中の五月四・五日の両日、沖津宮・中津宮の春季大祭が齋行され、新緑眩しいなか島内はもとより、島外からも多くの参拝者を迎え、

同日の四日には、早朝より境内の装飾、直会等の諸準備が整えられ、参道には大幟をはじめ、この度、

前日の四日には、早朝より境内の装飾、直会等の諸準備が整えられ、参道には大幟をはじめ、この度、

同九時よりは沖津宮春季大祭が島北側岩瀬の沖津宮遙拝所にて齋行され、海上五十キロ先の沖津宮を遙かに拝し、宮司の祝詞奏上に続き浦安舞が奏せられた。

沖中両宮奉賛会、丸井定氏と沖西敏明氏により奉納

続いて同十一時、中津宮に於いて春季大祭が齋行。高向宮司以下神職・巫女、また氏子奉幣使らが本殿へ参進。境内は島内外より多くの参拝者でうめられ、本殿前には大島の各漁船からの献魚をはじめ野の幸、献酒が供えられた。

いただいた紫幕が本殿と神門に掛けられ、境内は清らかな瑞気に満ちていた。

高向宮司の祝詞奏上に次いで、島の氏子を代表し奉幣使の遠藤三保氏が祭詞奏上、巫女により浦安舞が奉奏され、沖中両宮奉賛会会長、島の各代表者多数が玉串を奉り敬虔な祈りが捧げられた。

夕刻には高向宮司以下、大島に出向した神職・巫女らの奉仕により、大祭に先立ち地主祭、宵宮祭が沖津宮遙拝所と中津宮本殿において執り行われた。

引き続き高向宮司より紫幕奉納者、又昨年の献魚・献品多数奉納者に感謝状と記念品が贈呈された。

当日は午前八時半より宮崎区厳島神社において、同九時半より

午後一時からは境内の土俵にて恒例の春季奉納子供相撲が催され一番ごとに大きな歓声が上がりに賑わい、本年の沖津宮・中津宮の春季大祭は盛大裡に幕を閉じた。



尚、この大祭は旧暦の三月十四・十五日と定められ、島民の多くが従事する。漁業も漁止めとされ、島民上げて齋行されており、大祭諸準備には沖中両宮奉賛会(会長 沖西敏明氏)、同敬神婦人部(部長 河辺恒子氏)、同翼賛会(会長 遠藤三保氏)の皆様にご奉仕を頂いた。ここに紙面を借り篤く御礼を申し上げます。



氏子奉幣氏を御奉仕いただいた遠藤三保氏(右)



平成24年度

宗像大社奨学金受給生奉告祭

第五十三期を迎え、受給生は延べ八五四人に

四月二十九日(昭和の日)、奨学金受給生奉告祭が斎行され、本年度の受給生がご神前に参集した。尚、今年度の新



第53期生20名

受給生二十名で第五十三期生となり、延べ人数は八百五十四人にのぼる。当日は宗像・福津両市内より受給生約六十人が保護者とともに参集。午前十一時からの昭和祭に参列後、拜殿に昇殿し奉告祭が斎行された。有為な人材になる事を御神前に誓ってくれた事と思う。

祭典後は清明殿で選定書授与式と説明会が行われ、高向宮司から宗像大社奨学金選定書が生徒の代表に授与され、担当神職よりこの奨学金の歴史、制定目的、規定、受給方法等についての説明が行

われた。その後、生徒一人一人がテーマに沿った作文を執筆し、書き終えた生徒から奨学金支給を受け、境内をあとにした。(この作文は『奨学生作文の御紹介』として紙面で掲載します) 当大社の奨学金制度は、昭和三十四年の今上陛下御成婚を奉祝して制定され、翌年の昭和三十五年第一期生として宗像市・郡内の中学校出身者(当時は六中学校)に支給され今日に至っている。現在では宗像・福津市内十中学校より各校二名づつ選定し三年間支給している。



昭和祭にて玉串拝礼をする新受給生代表



高向宮司より選定書を受ける新受給生代表



昭和祭

宗像大社奨学金第53期受給生20名

藤中	島村	成真	花海	(大島中)	宗像	高
中野	山友	聖里	(玄海)	玄界	九州	高
川崎	内牙	悠里	(日の里中)	九産大	属成	高
陣内	雅也	(宗像中央中)	香椎	香椎	高	高
近見	上永	遠美	(城山中)	東海大	属第五	高
井上	田佑	生美	(河東中)	折尾	青藍	高
江藤	原健	司帆	(自由ヶ丘中)	博多	高	高
黒梅	末宗	優輔	(津屋崎)	光陵	像	高
池田	伊藤	照成	(福間)	宗像	東海大	属第五
遠藤	原田	紗英	(福間東)	香椎	工業	高
原羽	賀夢	津季	(福間東)	博多	高	高
竹永	永歩	未	(福間東)	九産大	属九州	高
			(福間東)	古賀	属成	高
			(福間東)	東海大	属第五	高

第12回

宗像大社氏子青年会

沖ノ島清掃奉仕

四月二十三日、宗像大社氏子青年会(会長 小林栄二氏)の会員また関係者約四十名が沖ノ島へ渡島、本年度十二回目となる清掃奉仕を行った。

この清掃奉仕は年に一度五月二十七日に約二五〇名に及ぶ一般参拝者をお迎えする「沖津宮現地大祭」の受入れ準備にあたって実施されている。昨年は時化により渡島中止となつた為、二年振りの実施であつた。

前日迄の荒れた天候が心配されたが、当日は晴天に恵まれ海上は凧となり午前八時に鐘崎港を出港、海上を進むこと約二時間で沖ノ島へ到着。直ちに海中で禊を行い、島の中腹に鎮座される沖津宮へ向かつた。

先ず葦津禰宜より挨拶・説明があり、沖津宮で奉告祭を斎行した後、奉仕作業を開始。本殿の屋根に積もつた枯葉を落とす等の本殿周りの整備、第一鳥居脇の正三位神社の修復、海岸へ漂

着したゴミの清掃、社務所外壁の塗装補修等、平素勤務している一名の神職では困難な作業を約二時間御奉仕頂いた。作業後は一同波止場で直会を行つて労い、帰路は沖ノ島を一周し幽玄な景観を拝しながら夕刻には鐘崎港へ無事到着し、本年の奉仕作業を無事終えた。



恒奉仕いただいた皆様

写真家 藤原新也氏ら参拝

去る四月二十一日、二十三日かけ、写真家・作家の藤原新也氏、歴史作家の安部龍太郎氏、歴史学者の磯田道史氏ら八名が宗像三宮に参拝された。

一行はまず総社・辺津宮を参拝、高宮祭場や神宝館を拝された後、大島へ渡島。中津宮を参拝され、翌日の沖津宮参拝に備へ参籠された。

翌日は波高三メートルの時化で渡島を断念、しかし、一同またとないこの機会を逃さざるべくスケジュールを調整さ

れ、なかには飛行機等の予定を変更される方もおられたようである。その願い叶つてか、翌日には時化もおさまり、念願の沖ノ島へ無事渡島、沖津宮を参拝された。

一同、連載やコラム欄を受け持たれているなど、各界でも著名な方々ばかり、今回の参拝を今後どのように世に出されるのか、待ち遠しい。

御参拝頂きました皆様の、今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

宗像大社菊花会

玄海小学校に菊資材を贈呈

五月晴れの五月十日、宗像市立玄海小学校体育館にて、恒例の菊資材贈呈式が行われ、三、六年生までの児童五十八名の前で、当社菊担当の神職・巫女から児童代表へ菊資材が手渡された。



同校では毎年小学三、六年生の児童を対象に、情操教育の一環として菊作り栽培に取り組んでおり、今年で十三年目を迎える。

この菊作りは、地元ボランティア団体「匠の会(会長 小並範義氏)」の指導により、少子化の影響もあり年々児童数も減少傾向ではあるが、個性豊かな菊花がこの神郡宗像を彩る秋が待ち遠しい。



(続)

浜の寄物

267

いしいただし



企画展(七月二十一日(土)〜八月二十六日(日))は「キノコの博物館誌」を行う。また初日の七月二十一日午後一時からは九州大学大学院農学研究院・大賀祥治教授から「キノコのパワーと魅力」の講演をしてもらう。

いま木の子(茸、菌)がブームである。スーパードパートの店頭に並んでいる多さには驚く。シイタケかマツタケぐらいいしか知らなかったが、近年(以前からあったのかも知れないが)食用のみならず薬用や滋養強壮といろいろな分野にも広がりを見せている。私の勤める古賀市立歴史資料館では夏の

本類も九州大学の大賀研究室から、多くを借りて展示するし、写真や

さて今回のキノコ展では標

映像も多用する。

この展示の目玉の一つに、東北地方の縄文時代の遺跡(縄文後期三〇〇〇年前)から出土したキノコ形土製品がある。

外にイノシシ形土製品クマ形土製品、海獣形土製品、シャチ形土製品亀形土製品、巻き貝形土製品などの動物土製品とキノコ形土製品があることは、土製品を使って儀礼的な意味が込められていたのではないかと思われる。生活の中に特に食生活で豊富にとれるキノコには、毒キノコもあり食べ方を間違えれば、精神に異状を来たし、死に至るものもあるの

で、子供の頃からその識別とかまたは祭祀か儀式をとり行っていたのかも知れない。今回展示する土製品は傘の部分

が大きさ七・八cm、柄の部分が一・五cm、小さなものは、三・五cmある。石製品も一個あり、傘が一・六cm、高さも一・六cmと小さいが、自然石に多少加工し、キノコ形にしたようである。九州の縄文時代では出土例がないので、一見の価値がある。展示は七点。

また声がかかり、その籠は重く受領が乗って手にも三ふさのキノコを持っていた。従者の前で「受領は倒れても土を掴めというではないか」と言った。京から地方に行く受領は、地方ではそれぞれ利益を求めていたことが分かる説話である。「転んでもただでは起きあがらない」受領達である。他に展示では下北半島の縫道石山(六二六m)の山頂で一九七六年に発見され、国の天然記念物の指定を受けたオオウラヒダイワタケ(地衣菌で岩茸の仲間、展示品は指定前に採取されたもの。現在では採取は禁じられている)他にヒバ(アスナロ)につくサルスの腰掛も二、三点くる。ヒバにつくサルスの腰掛はガンに薬効があるという。



この人形(女性像が多い)以外にイノシシ形土製品クマ形土製品、海獣形土製品、シャチ形土製品亀形土製品、巻き貝形土製品などの動物土製品とキノコ形土製品があることは、土製品を使って儀礼的な意味が込められていたのではないかと思われる。生活の中に特に食生活で豊富にとれるキノコには、毒キノコもあり食べ方を間違えれば、精神に異状を来たし、死に至るものもあるの

で、子供の頃からその識別とかまたは祭祀か儀式をとり行っていたのかも知れない。今回展示する土製品は傘の部分

また声がかかり、その籠は重く受領が乗って手にも三ふさのキノコを持っていた。従者の前で「受領は倒れても土を掴めというではないか」と言った。京から地方に行く受領は、地方ではそれぞれ利益を求めていたことが分かる説話である。「転んでもただでは起きあがらない」受領達である。他に展示では下北半島の縫道石山(六二六m)の山頂で一九七六年に発見され、国の天然記念物の指定を受けたオオウラヒダイワタケ(地衣菌で岩茸の仲間、展示品は指定前に採取されたもの。現在では採取は禁じられている)他にヒバ(アスナロ)につくサルスの腰掛も二、三点くる。ヒバにつくサルスの腰掛はガンに薬効があるという。



縄文時代 キノコ形土製器



縄文時代 キノコ形土製器

第六一〇回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



福津市 若木台

山崎 公俊

大樟の根方を幹をのぼるごと昔萌ゆあをき池塘のほとりに
楠の太木を生え上って行くように見える昔、昔の生命力が
良く捉えられている。二句は助詞を変え(根方に)としたい。

うきは市 浮羽町

向 則正

部屋に挿す蠟梅の花色冴へて純粋に生きし姉を想へり
姉思いの作者。ことによれば姉はもう亡くなられたのか。純粋さ
を強調して四・五句を(姉を思へりその純粋な生)などと詠む方法も。

北九州市 八幡西区

豊田 光子

葛藤のありて過ぎゆく人生に歩みゆく道春遠からず
人生にはいろいろ葛藤や齟齬もあるが、希望を感じて
いる作者。結句は「春遠からず」だが、道の辺の春の実
景を詠み込む詠みかたも試してみても。

宗像市 土穴

山本 静子

筆書きの和紙の金銭出納帳義父の記念と唯一所蔵す
形見の筆書きの出納帳が義父の人柄を想像させる。下
の句を(義父の形見にただ一つ持つ)とすると言葉が柔
らかくなり、義父を懐かしむ作者が強く出る。

福津市 中央

池浦千鶴子

数多ある服それぞれに若けれどわれのみ古りて着るを憚る
前から持つ服がどれも若向きになり着るのを憚る作
者。三句は(若向きで)に。自分で(古りたる)などと言
わず、若々しい服装で心を若く保ちましょう。

宗像市

東旭ヶ丘

天野 玲子

この日頃わが愛読書は文庫本バッグに今日は子規の歌集を
読書好きの作者。文庫本は持ち歩きに便利で重宝。バッ
グに子規の歌集を入れていて、作者の人柄もわ
かる。四句は(今日はバッグに)が自然では。

宗像市 池田

森 龍子

春彼岸桜の幹の艶めけば彼岸の夫との交信なさむ
彼岸の夫を恋う作者の思いが明るく感じられるのは、
桜の幹の艶めきがあるからだろう。彼岸が重なるので、
初句を(春分を)などと工夫してみても。

福津市 星ヶ丘

佐々木和彦

玄海の荒浪うくる荒磯岩ただ黒黒と歳月に染む
磯の岩を見て岩の上をすぎた歳月を感じる作者。眼に
見えないものを捉えることも歌を詠むのには大切。下
の句を(歳月の跡黒黒ととどむ)としてみても。

宗像市 田久

巻 桔梗

すこしだけ未来のことを知りたくて目覚ましを二ふん夜半にすめつ
主人公には二分だけ先のことに分かるというSFがあ
るらしい、それを下敷きにしている歌か。現実の時間
が来る前にその時間を体験する発想が面白い。

宗像市 日の里

大和美由紀

さみどりの井筒の並ぶ菖蒲池手入れされたる手形の残る
花を美しく咲かせると手入れをする人を、思いやる作
者の優しさ。下の句は(手入れをしたる手の形残る)に。

福津市 若木台

野間 精一

紫のガラスノエンドウ咲き出でてこの空地もにはかに華やぐ
空き地の、ガラスノエンドウの花の美しさに眼をむけ
る作者の、細やかな感性がよく出ている。三句のここ
がどこなのかが分かると更に良いのだが。

選者詠

ゆらゆらと揺らぎそのまま崩れさう

お皿のプリンわたしの理性

車椅子で散歩に行きし母もどる

髪にあぢさるの花をかざして

第五八四回

俳句作品集

宗像市 日の里

花田いつ枝

清盛のロケ跡春の海平ら

編集後記

今春、神徳宣揚の一翼を担うべく、広報課に異動して参りました奉職五年目、二十七歳独身の鈴木と申します。今まで身体しか使ってきませんでした。今必要に迫られ、頭とPCを使い始めています。▼早二ヶ月が経過しましたが、社務の内容から対応する方々まで従来とはガラリと変わりました。今までは氏子さんや氏子区域の業者さんといった、ある程度こちらの意を汲んでいただき、曖昧さが許されました。しかし、現在は記者、デザイナー、編集者といった言葉を尽くし、判断や断言が求められる場面が明らかに増えていきます▼まだ社社の広報がどうゆうものか理解できておりませんが、形として残るものや、神社の公的な方針や考え方を扱うため、曖昧さが許されなくなつたことを肌で感じております▼また、知恵はなくても絞りだす知識はもう少し増やさねばと痛感している日々であり、お見苦しい面もあるかと存じますが、どうかよろしくお願い申し上げます。(鈴木)

発行所 宗像大社事務所・宗像会

住所 〒811-1350

福岡県宗像市田島233-1

電話 (0940)621-3311(代)

発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円